

【評価実施概要】

事業所番号	2372101440
法人名	東洋ウエルフェア株式会社
事業所名	グループホーム燦
所在地	愛知県岡崎市福岡町字通長36番地1 (電話) 0564-59-5159
評価機関名	愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	愛知県名古屋市中区丸の内2-3-7
訪問調査日	平成19年6月22日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居宅介護支援事業所と訪問介護事業所が同居するホームで、2階建ての1階部分がグループホームとなっている。吹き抜けになった高い天井と庭側に面した大きなガラス窓が共有空間をゆったりと見せ、天然木を多く使用した造りは気分を暖かく、なごませてくれる。又、床下には炭が敷かれ、空気浄化と除湿効果を果たしている。「ひとりひとりを大切に その人らしく いつまでも普通に暮らせる」という運営理念は、職員、入居者共に移動が少なく、馴染みの関係が出来た中、今の「思い」を大切に支援の実践により実現されている。医療連携体制加算を算定すると共に、月曜～金曜日の午前中は看護師が勤務し入居者の健康面をサポートしている。ホーム内に給食委員会があり、入居者の身体状況や好みに配慮しながら、毎食ごとの食事摂取量の記録やカロリー計算も行われ、量や栄養バランスを個別に検討している。運営推進会議では、家族、地域、市の代表が、それぞれの立場から積極的な発言があり、地域に密着したホームのあり方を検討する会として有効に活用されている。

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 4月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤4人, 非常勤7人, 常勤換算8.48人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造1階建一部2階造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	48,430~50,500 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (300,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 84.8歳	最低	78歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院(内科) あおばクリニック竜美ヶ丘(心療内科) 藤原歯科医院(歯科)
---------	--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価を基に、改善に向けての話し合いを行った結果、ケアプランの内容を常勤職とパート職共に理解できるよう書式の見直しを行い、ケアプランのサービス内容を業務日誌に載せる様に変更して、情報の共有がしやすくなる取り組みをしている。居室やトイレの表示が入居者の視線より高い位置にあり、見難かった為、表示の高さを入居者の視線の高さに合わせるように変更している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には職員全員が関わり、ホームの質向上の為にホーム全体で取り組んでいる。以前の評価を基に、話し合いを行い、改善に向けて取り組める事から着手を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 参加者の積極的な発言や提言があり、ホームと地域との関係を前向きに進めようとしている。会議では、前回の検討課題についての経過や結果報告が行われ、継続的に話し合いが行われている。具体的には地域包括支援センターからは、入居者のADL低下に伴い、1対1の対応が必要となった場合、ボランティアの活用を提言されている。家族やホーム側からは緊急時の連絡網作成とマニュアル作り、実地訓練の提案がされている。ホーム側からは入居者の非難への対応方法と地域への応援依頼があり、各々の立場から意見交換を行っている。これらの意見については継続的な話し合いが行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 全家族に運営推進会議への参加を呼びかけた事で、積極的にホームへの要望が出されるようになってきている。会議後にはホーム内で「家族会」も開催され職員と気軽に話し合える機会作りを行っている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、説明を行っている。家族面会時には職員が声を掛け、最近の暮らしぶりを話題にしながら意見を聞くように心掛けられている。毎月1回、次月の行事日程やホームでの様子を「たより」として郵送し金銭管理の報告もしている。健康状態の変化については、その都度、電話連絡で報告をしている。職員の移動についての報告は家族会の席等で報告をしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に参加し、回覧板を回したり、老人会や運動会などの地域行事にも参加している。地域の小学校との交流も継続的に行われており、互いに良い刺激となっている。買い物は、出来るだけ地元の商店街を利用するようにし、馴染みの関係を作ることによって地域行事の情報を得る事ができている。三味線、音楽療法、手品等のレクリエーションボランティアも積極的に受け入れられている。現在、地域向けの「ホームだより」作成を検討中である。認知症対応型通所介護の指定も受け、3人程度の通所サービスの提供も模索している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりひとりを大切に その人らしくいつまでも普通に暮らせる」をホームの理念とし、入居者の今の思いを大切にしながら、住み慣れた地域で、より長くホームの生活が継続できるように支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティングを通し、理念の確認は行われている。入居者に対する支援の基本事項として、職員に浸透しており、日々実践を心掛けられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、回覧板を回したり、老人会や運動会などの地域行事にも参加している。地域の小学校との交流も継続的に行われており、互いに良い刺激となっている。買い物は、出来るだけ地元の商店街を利用するようにし、馴染みの関係を作ることで地域行事の情報を得る事ができている。三味線、音楽療法、手品等のレクリエーションボランティアも積極的に受け入れられている。現在、地域向けの「ホームだより」作成を検討中である。	○	入居者のプライバシーに配慮した地域向けの「ホームだより」作成に着手し、ホームへの理解を更に地域で得られるような取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には職員全員が関わり、ホームの質向上の為にホーム全体で取り組んでいる。以前の評価を基に、話し合いを行い、改善に向けて取り組める事から着手を行っているが、評価に対する「改善計画」が立てられていない。	○	自己評価や外部評価の意義をホーム全体が十分理解しているので、改善項目については「改善計画」を立て、ホームの質向上への取り組みの具体化が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族と地域代表、市町村関係者参加の下、2ヶ月に1度、開催されている。参加者の積極的な発言や提言があり、ホームを地域で前向きに受け入れようとしている。会議では、前回の検討課題についての経過や結果報告が行われ、継続的に話し合いが行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れたり、介護サービス事業者やグループホーム部会に参加する事で市と連携を図り、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、金銭管理の報告をし、次月の行事日程やホームでの様子を「たより」として郵送している。健康状態の変化については、その都度、電話連絡をして報告をしている。家族の面会時には、最近の暮らしぶりを職員から話しかけるように心掛けられている。職員の異動についての報告は家族会の席等で報告をしている。	○	現在、検討中の写真入の「ホームたより」の制作に着手し、ホームでの暮らしぶりをより具体的に、わかり易く報告できるような取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全家族に運営推進会議への参加を呼びかけた事で、積極的にホームへの要望が出されている。会議後にはホーム内で「家族会」も開催され職員と気軽に話し合える機会作りを行っている。重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、説明も行っている。家族面会時には職員が声を掛け、意見を聞くように心掛けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職者や異動が少なく、職員と入居者の馴染みの関係が出来ている。交代の際も、入居者に影響が出ないようにケースに応じた対応を工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、グループホーム連絡協議会等の研修には積極的に参加をしている。研修参加後は、報告書を書き、研修内容をホーム全体で周知できるようにしている。職員から申し出る研修については、勤務体制や予算の都合で参加できない場合もある。	○	職員の質の向上はホームの質の向上に直結するので、運営者は常勤、パートを問わず、レベルに応じた研修をより多く受講できるように勤務体制を含め、支援方法を整備する事が望まれる。職員のレベルに応じた育成支援計画についても取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会や県グループホーム連絡協議会の研修に参加し、他のホームとの情報や意見交換の機会を持ち、サービスの質向上に努めている。又、これらとは別に、市内の他のホームと職員の交換研修や交流の機会を持つことにより、問題点や運営上の悩みなどを解決する取り組みを行っている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族には、入居前に1回数時間づつ、何度か訪問してもらい、お茶を飲んだり、入居者や職員と話をしたりしてホームの雰囲気になじみながら馴染めるような機会作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、少し離れて見守りながら支援をするように心掛けられている。理念にある「ひとりひとりを大切に」を実践する為に職員は入居者の生活暦を把握し、入居者一人ひとりの思いを大切にしながら共にホームでの生活を支えあう関係作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の介護記録には、入居者の「つぶやき」が記録され、思いや意向を把握し、職員間で共有すると共に、出来るだけ希望が叶うように検討が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人に対し、職員2人の担当者体制となっており、入居者の身体状況や、希望、思いの収集をきめ細かく行えるようになっている。担当者からの意見は、計画作成担当者に伝えられ、介護計画に反映させている。家族の意見は面会時に聞くようにしているが、作成したプランへの要望を求めたり、説明する仕組みが徹底されていない部分がある。	○	家族会や運営推進会議に欠席したり、面会の機会が少ない家族へのケアプランの説明や意見収集を確実にすることが望まれる。作成した介護計画書は、家族に同意を求めるだけでなく、できるだけ多くの家族から何かしら意見を得られるように積極的な問いかけをホーム側からして、説明を行うことが望まれる。「センター方式」の導入も検討も期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回行われるケース会議で、検討が行われている。変化がある場合は、担当者や計画作成担当者が話し合い、随時見直しも行われている。プランは常に「その人らしく」という運営理念を確認しながら行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設以来、退去者が少なく馴染みの関係が築かれている。入居者の高齢化や身体レベルの低下に伴い医療連携加算の指定を受けたり、介助の方針を見直したりと入居者が安心してホームで暮らし続ける為の方法を個別に検討しながらサービスの提供を行っている。	○	運営上の都合から管理者も勤務ローテーション入りするようになり、職員の急な欠勤が生じた場合等に対応が難しかったり、職員に無理が生じる恐れがあるので、ホームの多機能性を発揮する為に、職員に身体的、精神的負担が生じないような体制について法人の理解が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や心療内科の協力医院を確保し定期的な受診が行われている。歯科も協力医院があり随時受診の支援を行っている。他の診療科目や入居者、家族が、馴染みのかかりつけ医の受診を希望する場合は、原則家族が送迎をしているが、ホーム側で対応する場合もある。その際は、電話で受診経過を報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来、退去者も少なく、入居者の高齢化、身体レベルの低下にどうやって対応するかが検討課題となっている。運営理念に基づき、ターミナルケアを行うホームの方針は決まっているが、具体的な内容や方針はまだ話し合われておらず、決まっていない。	○	出来るだけ早く、職員や家族、本人の意見をまとめ、医師、看護師の協力体制を確保し、ホームとしての具体的な方針を決め、マニュアル作りも含め、関係者が方針の共有を出来るように取り組む事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対し尊敬の気持ちを持って接している。個人情報についても、馴染みの関係を保ちながらも、プライバシーや個人情報について配慮するように話し合われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ひとり ひとりを大切に その人らしく」の運営理念にあるように、日頃の生活の中で職員は、入居者の「つぶやき」を収集し、出来るだけ本人の希望に添えるような、支援を心掛けている。例えば「釣りに行きたい」と希望すれば、体調や天候に配慮しながら一日過ごせるように支援し入居者が「こちよさ」を実感してもらえるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間に面した台所からは調理の音や匂いがし、配膳台に彩り良く並べられた食事は、五感を刺激して食欲を引き出している。食事の準備や片付けは、入居者の身体状況に応じて「できること」や「やりたい事」に対応できる様に支援している。食卓には季節の花や手芸の作品が置かれ、食事中的話題づくりに一役買い、楽しい食事の時間を過ごす事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	4年間のホーム運営の中で、試行錯誤の結果、入居者の希望や身体状況に配慮して入浴時間は13時30分から15時頃となっていたが、体調の都合や拒否があり入浴の間隔が開いている場合は、時間を決めず、入居者の状況に応じて声掛けをしている。入浴は毎日可能であるが、午後に行事がある場合などはやむを得ず中止するケースもある。浴室、浴槽はゆったり広く仲の良い入居者同士が同時に入ることも可能である。	○	行事がある日でも入浴に対応できる体制作りの工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の身体状況に応じて、洗濯物たたみ、掃除、食事のかたづけ等の出番を支援している。生け花や手芸、カラオケなどのレクリエーションも取り入れ、単調な生活にならないよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の高齢化と身体レベル低下に伴い、散歩の時間は減っているが、少し離れた系列法人施設まで出掛けて喫茶をする機会を定期的な作っている。入居者の希望があれば、天候や体調に配慮しながら出来る限り支援するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、入居者の特性をよく理解し、見守り重視の介助を行っており、居室や日中玄関の鍵をかけないことが、当たり前の支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけを行っている	年に2回、日勤帯、夜勤帯を想定して火災訓練を行い、消火器の取り扱いについても火災報知機の事業者より指導を受けている。地域総代に、非常時には協力を得られるよう、日頃から働きかけを行っている。	○	過去に非常食と水の備蓄がされていたが、賞味期限切れで処分されたまま、補給がされていないので、補充する事が望まれる。災害時に地域から協力を得られる為の関係作りと、家族への非常時連絡マニュアルの作成、避難場所である小学校までの足の確保について取り組みが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内に給食委員会があり、入居者の身体状況や好みに配慮しながら、量や栄養バランスを個別に検討をしている。毎食ごとの食事摂取量の記録やカロリー計算も行われている。食事、おやつ、服薬時を通して水分摂取に努め、不足のないように積極的に支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に面した大きな窓と、吹き抜けの天井は、共有空間をより明るく、広く感じさせている。よしずを利用して日射しへの配慮もされている。床や食卓テーブル等には無垢の材木を多く利用し、暖かい感触を日々の暮らしの中で感じる事ができる。床下には炭を敷き、匂いや湿気に対する配慮を行っている。ゆったりとしたオープンキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや、調理をする音、茶碗を洗う音が居間に広がり、入居者の五感を刺激している。食卓には季節の花や入居者が作った手芸の作品がさり気なく置かれ、和みの空間としての工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のホームに対する今の思いや、状況に配慮しながら、家具や写真等、馴染みの品や好みを取り入れ、個々に応じた、居室作りの支援が行われている。		

※  は、重点項目。